

令和7年度北海道登別青嶺高等学校 学校経営シラバス

学校の現状

●生徒の状況

進路(令和6年度卒業生)

大学等進学者	21人、	20%	(国公立4人、私立17人)
専門学校進学者	44人、	482%	
看護学校進学者	7人、	7%	
就職者	27人、	26%	

●教職員の状況

・60代4名、50代5名、40代11名、30代6名、20代3名
平均44歳

- 生徒が学習・部活動等に取り組み落ち着いた学校生活を送っている。
- 地域の教育力を生かした探究学習に取り組んでいる。
- 教職員が職務に前向きに取り組んでいる。
- 生徒の基本的な生活習慣、学習姿勢の改善・確立が求められる。
- 特別な教育的対応を要する生徒が増加・困難化の傾向にある。
- 時間外勤務の縮減への取組を一層進める必要がある。

学校の課題

- 組織的協働体制の構築→組織コミュニケーションの確立
- キャリア教育の充実→キャリア発達を意図した教育活動の展開
- 育成したい生徒像の共有→身に付けたい「六つの力」の共有
- 主体的・対話的で深い学びの実践→学習指導・学習評価の充実
- 魅力ある学校づくりの推進→適時の情報発信と地域との連携・協働
- 教職員の指導力向上→外部研修への参加と研修成果の還元・共有

校訓

至誠 錬磨 自律

学校教育目標

- 「郷土を拓き、未来を創造する人間の育成」
- ・郷土の人と自然を愛し、文化を守り育てる人間
- ・心身を鍛え、逆境に立ち向かっていく人間
- ・知的探究心を備え、未来を展望する人間

重点目標

- 1 基本的な学習姿勢を身に付け、目標を持って主体的に学力を積み上げる生徒
- 2 自他を尊重し思いやりの心を持ち、義務と責任を重んじ的確に判断し行動できる生徒

スクール・ミッション

- 1 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成
- 2 地域唯一の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成
- 3 自他を尊重し思いやりの心を持ち、義務と責任を重んじ的確に判断し、主体的に行動できる生徒の育成

スクール・ポリシー

- 1 育成を目指す資質・能力に関する指針(グラデュエーション・ポリシー)
 - (ア) 自己実現力→自己の将来像に夢や理想を持ち、その実現に向け自発的に努力する力
 - (イ) 健全性→健全な心身を保ち、高めるために継続して努力する力
 - (ウ) 課題解決力→広い視野と旺盛な探究心を持ち、自ら課題を見つけ、課題解決する力
 - (エ) 論理的思考力→様々なテーマや問題に対して論理的に意見を組み立て、表現する力
 - (オ) 主体的行動力→自他の考えを考慮し、自分自身で考え、主体的に行動する力
 - (カ) 協働性→社会の担い手としての責任感を持ち、ともに支え合って成し遂げようとする力
- 2 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)
 - (ア) 普通科単位制の特色を生かし、学力を系統的に積み上げる教育課程を編成する。
 - (イ) 一人一人のキャリア形成を促すとともに、多様な進路目標に対応できる教育課程を編成する。
 - (ウ) 総合的な探究の時間や特別活動を通して、生徒の主体性を育む実践的な活動の充実に努める。
- 3 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)
 - 大学進学や資格取得など明確な目的意識を持ち、意欲的に学習に取り組む生徒や、部活動、生徒会活動、ボランティア活動に熱意を持って取り組む生徒を求める。

学校課題の共有と課題解決に向けた協働体制づくり

- 組織コミュニケーションに基づいた組織的協働体制の構築
- 教職員の学校経営参画意識の反映
- 組織体制の検証
- 目指す学校像・育成したい生徒像の共有
- 短期・中長期的な視点による学校評価の運用
- 時間外勤務縮減に対する取組の推進

評価の観点

- 目指す学校像や生徒像の共有は深まったか
- 解決策の提示、具現化の取組が組織的に進んだか
- 学校経営参画意識が教育活動へ反映されたか

単位制における教育課程と身に付けたい「六つの力」の共有

- 単位制として4年を経過し、学習指導要領年次進行の完成を機に単位制における教育課程の再認識・再確認をし、共通認識を深める。
- 学習指導と学習評価の充実
 - ・「六つの力」と関連付けた主体的・対話的で深い学びの実践
 - ・学習における指導方法及び評価方法の充実(授業改善、デジタルとアナログのバランス、観点別評価の定着)
- 組織的・系統的なキャリア教育の推進
 - ・「六つの力」とキャリア発達とを関連付けた教育活動の展開
 - ・進路指導と各種ガイダンス機能の充実
 - ・キャリア教育の全体計画、年間指導計画の活用

評価の観点

- 普通科単位制教育課程の共通認識・共通理解は図られたか
- 「六つの力」を主体的・対話的で深い学びと関連付けられたか
- 「六つの力」をキャリア発達と関連付けられたか

魅力ある学校づくりの実現

- 学びたい、学ばせたい学校づくりの推進
 - ・適時の情報発信(Webページの更新、マスメディアとソーシャルメディアの適切、効果的な活用、学校運営協議会への情報提供)
 - ・他校種との連携(教育活動の共有・協働、学校訪問)
 - ・家庭・地域との協働(地域へ貢献し、共生社会を担う人材育成)
 - ・教員の人間性、専門性を基盤とした生徒指導の充実
 - ・安心・安全な教育環境の維持・整備
- 特別な教育的対応が必要な生徒に対する組織の維持・活用
 - ・教育相談体制の充実と特別支援教育の推進(教職員の知識・技能の向上、教育相談委員会の活用)
 - ・関係機関(SC、SSW等)との連携・協働

評価の観点

- 情報発信は、適時に行われたか
- 他校種、家庭や地域との連携が促進されたか
- 学習環境の維持・整備はなされたか
- 特別な教育的対応に関する組織の維持・活用はなされたか